



平成 19 年 7 月 17 日

神奈川県知事 松沢成文 殿
藤沢市長 山本捷雄 殿
藤沢市議会議長 河野顕子 殿
日本ナショナルトラスト会長 杉浦喬也 殿

社団法人 日本建築学会関東支部
支部長 片桐正夫

旧モーガン邸修復再生に関する要望書

拝啓 貴下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より、本会の活動につきましては、多大なご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

先般の旧モーガン邸（藤沢市大鋸所在）主屋の不慮の事態に対し、関係各位に心からのお見舞いを申し上げます。

私ども日本建築学会は、かねてより旧モーガン邸の建築史上の価値を高く評価してまいりました。昭和6年に建設された旧モーガン邸は、日本で活躍したアメリカ人建築家の自邸であり、日本建築の要素を取り入れながら計画された独特の意匠は、他に例を見ない極めて貴重な建築です。また、今日まで敷地や付属家ともども当初の様相を大変良く残しながら存続してきたことも旧モーガン邸の特筆すべき価値といえます。

旧モーガン邸の重要性を認識した建築家や地元市民たちの熱意から生まれた保存に向けての運動は、2005年8月、貴財団法人の主導の元に藤沢市の多大な協力を得て敷地全域の保存として結実しました。こうしたプロセスは、従来にはない歴史的建造物の保存事例として全国から注目されており、今後の歴史的建造物保存の一つのモデルとなるべきものといえます。

今回の火災によって、旧モーガン邸主屋が損傷を受けたことは大変残念なことでした。ただし地下室、1階床面、サンルーム、玄関部分はほぼ当初のまま存続し、外壁も焼損の小さい部位も多く、創建時の建具の大部分は別室に保管してあったため被害を免れております。また、いままでの保存運動の過程において実測調査資料や写真資料なども豊富に蓄積されていると聞き及んでおります。当支部の専門委員による被災状況実見の所見からも明らかのように、私どもは旧モーガン邸の修復再生は可能であり文化財的価値は継承され得ると考えております。旧モーガン邸の価値は主屋を中心とし、両親の家、ガレージ、庭園などが一体となった価値であり、これらのいずれもが存続すべきと考えております。

文化財建造物の潤滑な保存活用が課題とされる今日、市民のたゆまぬ熱心な活動によって保存が実現した旧モーガン邸は、文化財保存活用の先駆的事例の象徴であり、決して失われるようなことがあってはならない貴重な文化遺産です。



また、今回の旧モーガン邸に対する暴挙は、決して許されるものではありません。市民が大切に守り育ててきた文化遺産を標的にした暴挙に対し、ひるまず断固たる態度で臨むことを表明するためにも、旧モーガン邸の修復再生は不可欠なものと確信しております。

関係各位におかれましては、すでに多大なご助力を尽くされてきましたこと、十分承知しております。今回の不慮の事態に際し、今一度旧モーガン邸の歴史的価値を再認識し、私たちが子孫に継承すべき貴重な文化財として、今後も末永く旧モーガン邸が存続することを切に希望し、ここに旧モーガン邸主屋の修復再生を要望いたします。

言うまでもなく修復再生に際しては、学術的観点からできる限りの支援をさせていただきますことを申し添えさせていただきます。

敬具